

# 京都華頂大学現代生活学部 生活情報学科 3つの方針

## 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

生活情報学科では、学部の学位授与の方針に基づき、以下の資質・能力を総合的に身に付け、情報技術革新による社会的諸問題の解決を目指す人間中心の社会の発展に貢献できる力を備えた者に学士(家政学)の学位を授与する。

- (1) 知識・理解
  - ・ 現代の情報化社会の仕組みや、社会・経済活動の基礎に関する専門的な知識を有している。
  - ・ 人間の一生(ライフステージ)における各段階の多様な生き方に関する幅広い知識を有している。
- (2) 汎用的技能
  - ・ 生活に関する統計等を適切に収集して分析し、論理的に思考することができる。
  - ・ 場面や目的に応じて適切に意思疎通を図ることができるコミュニケーション・スキルを備えている。
  - ・ フィールドワークや事例研究により、経済・経営のしくみを理解し、実用的な知識を備えている。
  - ・ 情報通信技術(ICT)を活用する際の正しい倫理観を備え、新たな生活様式に基づいた情報を発信することができる。
- (3) 態度・志向性
  - ・ 生活様式の変化によって生じる新たなルールや規範に合わせて柔軟に行動し、自己の良心に従って主体的に行動できる。
  - ・ 多様性を尊重し、様々な意見を取り入れて、共通目標のために協働できる。
  - ・ 生涯を通じて学習する意識を持ち、その基礎を身に付けることができる。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
  - ・ 獲得した知識・技能、態度等を総合的に結び付けて、課題の発見、解決に主体的に参加する能力を有している。

## 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

生活情報学科では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、全学部共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については次のように定める。

### 1 教育課程・授業・学修方法の在り方

- (1) 知識・理解
  - ・ 現代の生活、地域、社会の諸問題やライフステージに関しての知識・理解のために、学部共通の基幹科目を置く。
- (2) 汎用的技能
  - ・ 現代社会に必要なコミュニケーションについて学ぶために、基本科目に英語コミュニケーション、日本語表現法などの科目を置く。
  - ・ 自然や社会的事象について理解し、情報リテラシーを身に付けるために、基本科目に情報処理などの科目を置く。
  - ・ 実践的な知識を獲得するために、学科選択科目に、生活経営学、消費者行動などの科目や、資格・免許に関する演習科目を置く。
- (3) 態度・志向性
  - ・ 課題解決のための主体性を獲得するために、生活基礎、家庭生活、社会・制度、コミュニケーション、IT・調査分析、ウェブ・デジタルライフなどの専門科目群を置く。
  - ・ 新たな社会のルールや倫理について学ぶために、学科選択科目にインターネットリテラシー、流通と生活などの科目を置く。
  - ・ 多様性を理解し、異なる意見をもつ他者との協調、協働を学ぶため、総合基礎演習や多文化共生論などの科目を置く。
  - ・ 知識や技能等を活かして社会に貢献するため、キャリア教育、ITビジネス論、資格・免許の実習科目などを置く。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
  - ・ 獲得した知識、技能等を総合的に活用し、主体的に問題意識をもって計画したことに取り組むため、卒業演習の科目を置く。

## 2 学修成果の評価方法

- ・ 講義、演習、実験・実習をとおして知識・理解を深め、諸問題を発見・分析・考察した上で、課題解決に対応する能力が備わったかを筆記試験・レポート・口頭発表等により評価する
- ・ GPAによる客観的な評価基準を適用する。

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

- (1) 知識・理解
  - ・ 高等学校等の教育課程の学習内容を幅広く理解している。
- (2) 思考・判断
  - ・ 衣食住や経済、情報通信技術など生活に関する知識を身に付け、多様な他者と協働して社会の諸課題を解決しようと考えている。
- (3) 関心・意欲・態度
  - ・ 生活情報学科で扱う諸学問に関心があり、家庭生活の向上や家庭科教育、消費者市民社会の形成に意欲があり、主体的に学んで卒業後、社会に貢献する意欲がある。
- (4) 技能・表現
  - ・ 情報リテラシーを備え、適切な表現や客観的事実によって自己の考えを他者に伝え、他者の意見をもとにより良い生活情報を発信するの確に伝える技能を身に付ける意欲がある。